

2 研究の実際

(5) 音楽科における言語活動の充実の工夫

言語活動は手立てであり、音楽科の教科目標や指導事項をよりよく実現させるために有効な手立てです。表現や鑑賞の学習を深めていく過程において、自分の考えを音や言葉で伝え合い、友達の考えに共感したり、考え方を共有したりできるように、音と言葉によるコミュニケーションを図る指導を充実させることが重要です。その際、音楽表現に対する思いや意図、感じ取ったことや想像したことなどを言葉で適切に表すことができるようにすること、言葉で表す活動と実際に音で表したり音楽を聴いたりする活動とのバランスを図ることが大切です。

音を媒体としたコミュニケーションと言語によるコミュニケーションのバランス

- ・「歌唱」や「器楽」の活動で、仲間と共に表現を工夫する活動では、歌い試したり、リコーダーで吹き試したりするなど、実際に音を出して確かめながら、表現を工夫するようにさせる。
- ・「音楽づくり」「創作」の活動では、楽器を演奏したり、声に出したりするなど、実際に音を出して確かめながら、取り組むようにさせる。
- ・表現の活動では、ICTを活用するなどして、自分たちの演奏を録音・録画したものを後で視聴させ、振り返って確認させながら、表現を工夫させる。
- ・音楽的な特徴などを理由として挙げながら音楽のよさや美しさなどについて伝え合わせる活動において、実際に音楽を聴いて確認しながら話し合わせる。
 (音源の例)・タブレットPC…聴きたいところから、何度でも再生できる。
 ・CDラジカセ…操作が簡単

聴覚と視覚を関わらせる工夫

- ・旋律の動きを聴き取らせた後で、図形楽譜を用いるなどして視覚的に捉えさせて、確認させる。
- ・旋律と旋律の関係を聴き取らせた後で、楽譜を見ながら旋律の関係を確認させる。
- ・用語や記号の理解を言葉による理解に留めず、実際の音楽を通して確認させる。

知覚・感受を豊かにする工夫

- ・知覚したことと感受したことを整理して言葉で表すことができるようなワークシートを工夫する。
- ・音楽表現に対する自分なりの思いや意図を言葉で表すためのワークシートを工夫する。
- ・旋律の動きを身体で表現させるなどしながら特徴をつかませてから、言葉で表現させる。
- ・「知覚シート」「感受シート」を準備し、言葉の例を示すなどして、表現語彙を増やす。

比較聴取の工夫

- ・楽曲の特徴を知覚させるために、楽曲をいくつかの場面に分けて聴かせたり、複数の曲を比較して聴かせたりする。

2 研究の実際

(6) 言語活動の充実を図る学習形態

目的や学習内容に応じて活動形態を工夫することは、充実した言語活動につながります。言語活動の活動形態は、個人、ペア、グループ、全体の4つが考えられます。表4は、活動形態ごとの内容や利点、留意点をまとめたものです。それぞれの活動形態の利点を踏まえた上で、授業のねらいに即し、それを達成するための形態に配慮する必要があります。自由に考えが言える雰囲気を作ったり、表現に用いる語彙を増やすような手立てを取ったりすることで、感じ取ったことや聴き取ったことを伝えることが苦手の児童生徒も安心して伝え合うことができます。

表4 言語活動の活動形態別の利点と留意点

活動形態	活動内容	○利点 ★留意点
個人	・ノートやワークシートなどに考えを書く。	○自分の考えをもつことができる。 ○書くことで自分の考えを整理することができる。
ペア	・隣同士で考えを伝え合う。 ・自由に相手を選んで、考えを伝え合う。	○緊張感が少ないため、気軽に交流できる。 ○短い時間で意見交換ができる。 ○自分の考えと比べながら相手の考えを聞くことができるため、自分の考えに客観的な視点を入れた確認ができる。 ○全体の話し合いを行う前にペアの話し合いを入れることが、安心して発言する場を与えることにつながる。それが、積極的な授業参加を促すことにもつながる。 ○自分の考えがもてなかったときは、友達の考えを基に自分の考えを生み出しやすくなる。 ★ペアを誰と作るかを考える必要がある。 <u>隣同士など固定のペアで活動させる場合</u> ○短時間で交流できる。 ○児童生徒の人間関係に反映することなく活動させることができる。 <u>自由に相手を選んで活動させる場合</u> ○多くの友達と意見交換ができる。
グループ	・3人以上でグループを作って考えを伝え合い、出し合った考えを基に、話し合いを進める。	○複数の考えに触れられるため、お互いの考えの類似点や相違点を見いだしたり、考えを深めたりできる。 ★目的や学習内容に応じてグループの人数を考慮するとよい。 ○互いに意見を述べ合い、折り合いをつけて一つに考えをまとめていく場合は3～4人グループが取り組みやすい。 ○多様な意見を交流することで考えを広めたり深めたりするような場合は6～8人グループが取り組みやすい。 ★だれかがやってくれるだろうという甘えが生まれる可能性があるため、はっきりとした目的意識や当事者意識をもたせ、学びの成果が可視化できる手立てを用いる。 ★一人一人が考えをもってグループ学習に臨めるように、個人の意見を整理する時間を取る。 ★順に考えを出し合うだけになってしまわないように話し合いの視点を明確にする。
全体	・全体の前で個人の考えや、ペア、グループで話し合ったことを発表する。	○その授業で必要な知識についての理解を深め、全体で共有することができる。 ○さらに多様な考えに触れ、考えを深めることができる。 ○教師との対話により、良い考えを共有したり誤った言葉の遣い方を修正したりして、全体で確認することができる。